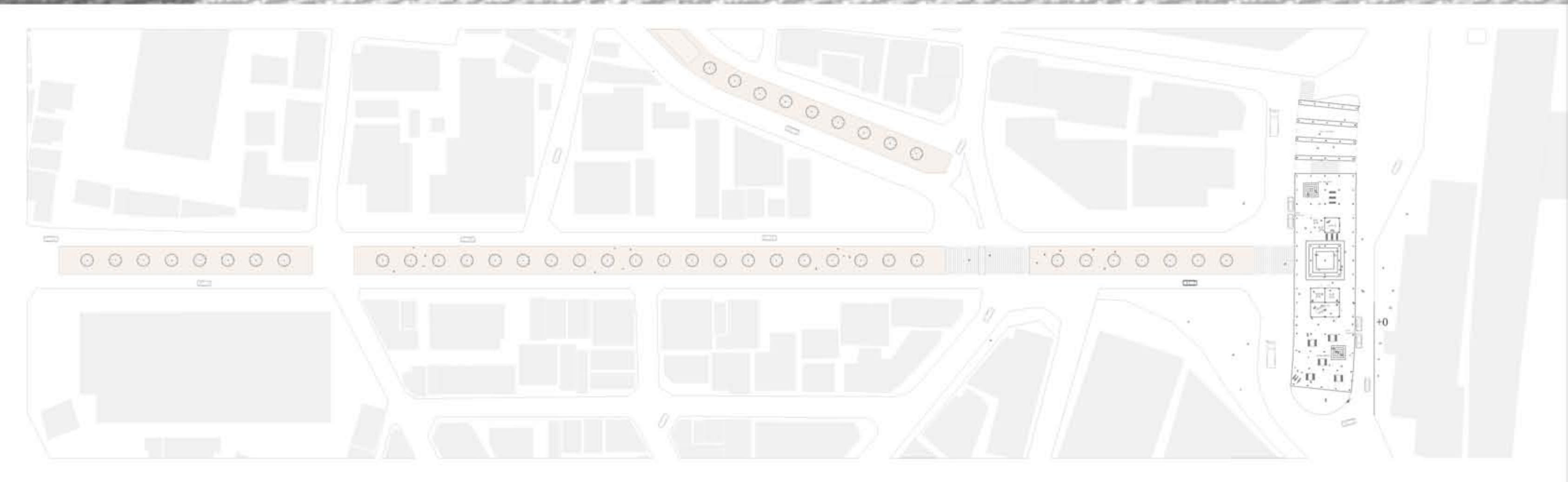
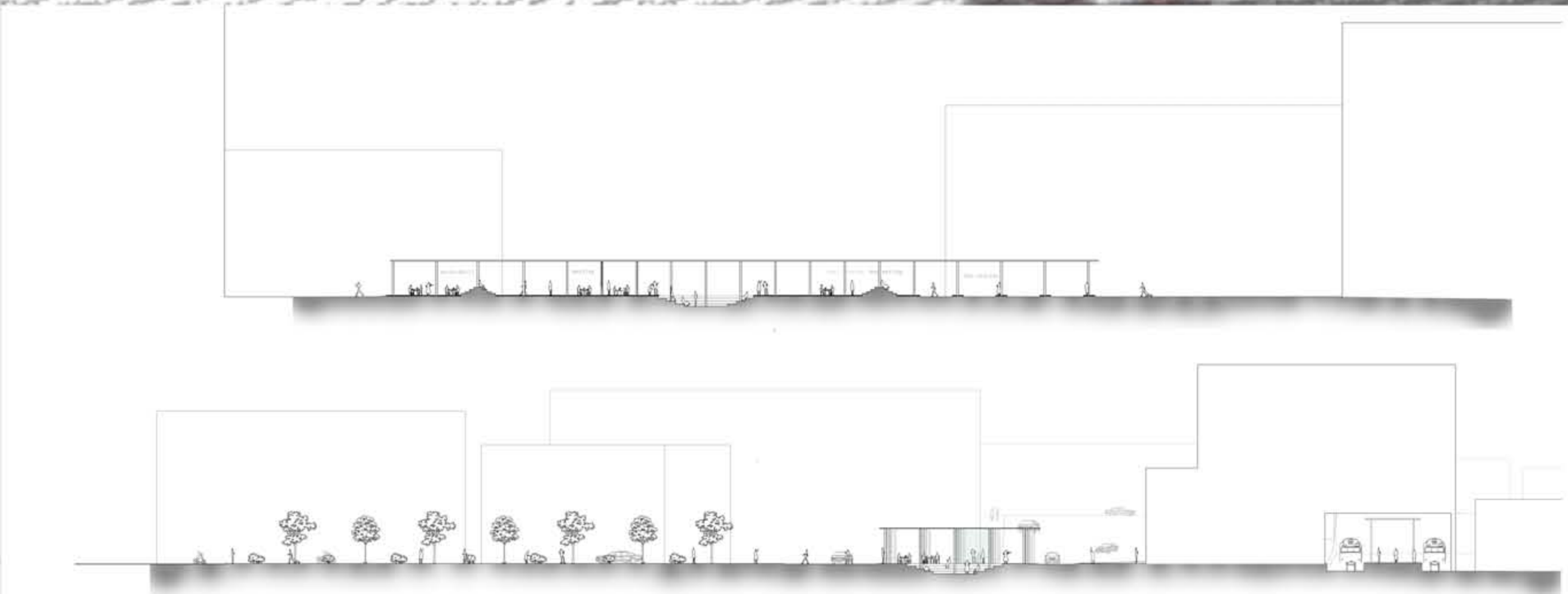


同じベンチに座ったということがつながりとなり  
会話を弾ませる祖父の安らいだ顔が懐かしい。



かつての日本には都市の中に様々な出会いの場所があった。  
日本には 家の中に居ながら外を積極的に受け入れる文化があった。  
都市でのつながりを絶つようになってしまったのではないだろうか。  
それは長い歴史を持ち、下町の要素を残す大井町にも感じられる。  
そこで、この敷地に人々がとどまり憩う空間を提案することで  
かつてのような風景が実現されるのではないかと考える。  
駅前空間に大屋根のピロティを構想する。この空間をどこから  
でも入れるようにし、また内部をヒューマンスケールで設計する  
ことにより人々が集まり憩うことのできる空間をめざす。

それは『都市のリビングスペース』として、大井町を都市的につなぐ。





～人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ～

## 提案要旨説明書

### ■作品タイトル

# 都市の居間

### ■提案要旨

同じベンチに座ったということがつながりとなり  
会話を弾ませる祖父の安らいだ顔が懐かしい。

かつての日本には都市の中に様々な出会いの場所があった。人々は家庭内、親族内へとももるようになってしまったのか。日本には家の中に居ながら外を積極的に受け入れる文化があった。鳥の囀りや木々の揺らぐ音がきこえ、近くに住む人たちが行き交うことも聴覚的に理解する、そんな文化があった。住居の寿命は30年といわれ、移り変わりと共に、防犯上の関係などから、閉ざされた住居が都市に目立つようになると、人々もそれに従属するように都市でのつながりをつ絶つようになってしまったのではないだろうか。それは長い歴史を持ち、下町の要素を残す大井町にも感じられる。そこで、この敷地に人々がとどまり憩う空間を提案することで、かつてのような風景が実現されるのではないかと考える。それは『都市の居間』として、大井町を都市的につなぐ。

※なぜこのような提案としたのかという理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。